

プロジェクト課題No.3

新規就農した和牛繁殖農家の 飼養管理技術向上及び経営の安定

令和2年9月8日

大崎農業改良普及センター



計画期間

令和元年度～令和2年度

対象及び対象者数

和牛繁殖経営を開始した認定新規就農者 3名
(大崎市岩出山、鳴子温泉、色麻町各1名)

担当チーム員

R1 千葉 和義 大友 一博 佐藤 敏昭 若尾 昇

R2 千葉 正典 大友 一博 佐藤 敏昭 村主 栄一

課題の背景！

○黒毛和種の子牛生産頭数は、和牛繁殖農家の高齢化などに伴う飼養戸数減少により減少。



取引価格の高騰が続いている。



○和牛繁殖経営を継承・開始する新規就農者は増加。

管内の和牛繁殖経営を主とする認定新規就農
平成27年 2名, 平成28年 3名,
平成30年 1名, 令和元年3名 合計9名

和牛繁殖経営の特徴

- ① 畜舎等の整備や繁殖素牛の導入など多額の初期投資が必要。
- ② 繁殖素牛導入から、子牛生産販売までに2年要する。(2年は無収入)
- ③ 子牛の販売価格が安定して得られまで、数年の経験が必要。



和牛繁殖経営を開始した認定新規就農者の技術向上と経営安定

設定した目標

定性的目標（令和元年度）

- ① 雌牛の繁殖管理記録を整理し活用する
- ② 子牛の体尺測定，体型審査を実施・分析して，高い資質を持った子牛を育成，販売できるようにする

定性的目標（令和2年度）

- ・ 飼養管理技術及び経営管理能力が向上し，経営が安定するとともに経営規模が拡大する。

活動事項

飼養技術向上に向けた個別支援

経営安定に向けた支援

定量的数値目標

子牛市場平均価格を年間を通じて上回る
3人

飼養技術向上に向けた個別支援（子牛市場での対応）

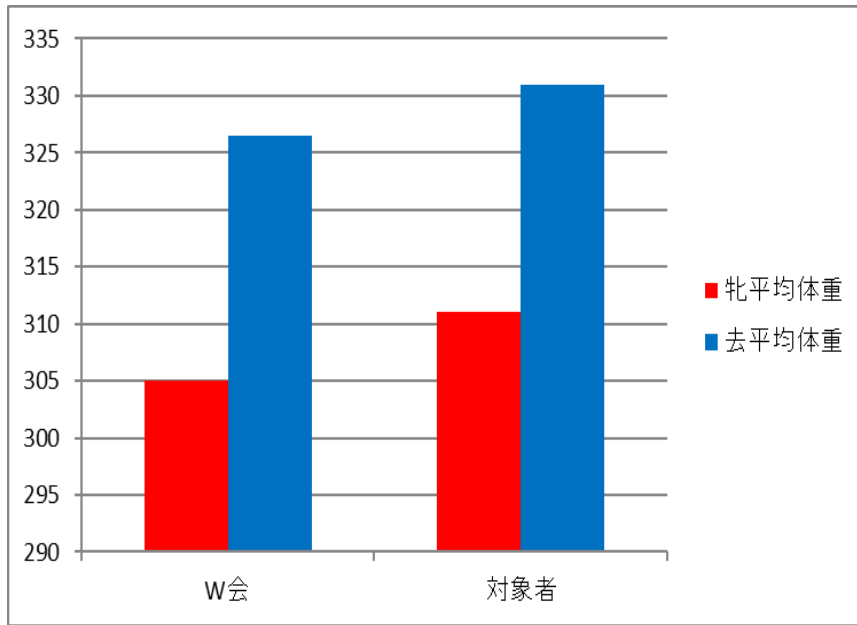
子牛市場での対応

- ① 出荷子牛の子牛の体尺測定や日齢,血統及び取引成績の収集と分析。
- ② ①を実施している畜産農家グループのDATAと比較。

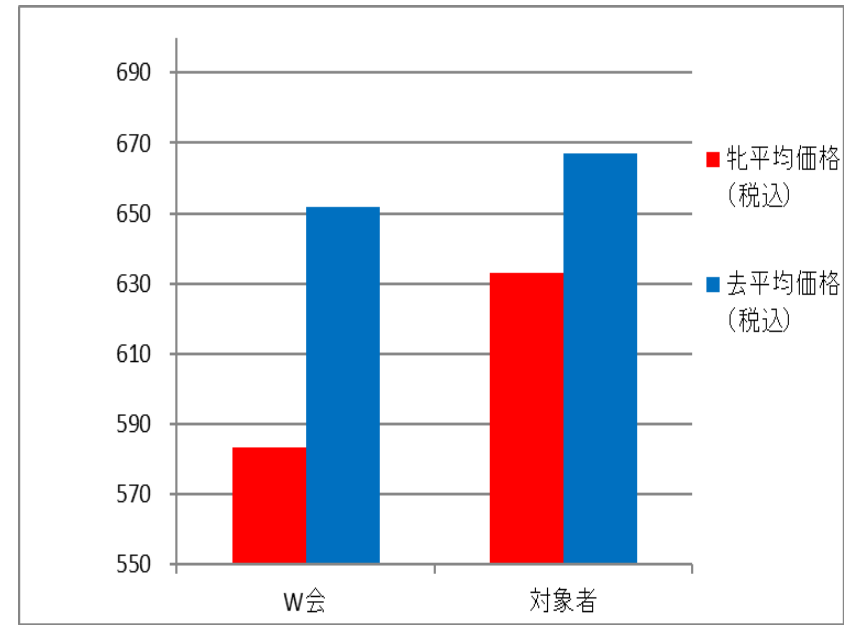
No.	対象	入場番号	生年月日	上場日	月齢	性別	① 体高 (cm)	② 月齢に 応じた平均	③ 平均との差 (cm)	④ 当該牛 σ値	体重 (kg)	価格 (千円)	栄養度
1	U	1002	R1.7.20	R2.4.14	8.8	去	119	110.1	8.9	2.7	370	676.5	6
2	U	1015	R1.6.29	R2.4.14	9.5	牝	118	111.8	6.2	1.8	285	563.2	5
3	K	1067	R1.7.3	R2.4.14	9.4	去	120	114.2	5.8	1.8	350	669.9	6
4	K	1068	R1.6.23	R2.4.14	9.7	去	120	115.1	4.9	1.5	313	677.6	6
5	T	1356	R1.6.30	R2.4.14	9.5	去	116.6	114.4	2.2	0.7	277	542.3	5
6	T	1357	R1.6.27	R2.4.14	9.6	牝	116.2	114.7	1.5	0.5	272	541.2	6
7	T	2326	R1.7.3	R2.5.13	10.4	去	119	116.8	2.2	0.7	332	633.6	6
8	T	2327	R1.7.12	R2.5.13	10.1	牝	112	116.0	-4.0	-1.2	272	723.8	6
9	K	1281	R1.10.21	R2.7.14	8.8	去	116	109.9	6.1	1.8	332	642.4	5
10	K	2170	R1.10.21	R2.8.19	10.0	牝	111	115.7	-4.7	-1.5	296	606.1	5
11	U	2177	R1.11.22	R2.8.19	8.9	去	125	112.7	12.3	3.9	355	772.2	5
12	U	2178	R1.11.4	R2.8.19	9.5	去	120	114.4	5.6	1.7	322	722.7	5
13	K	2111	R1.10.4	R2.8.19	10.5	牝	116	113.9	2.1	0.6	300	720.5	5
				平均	9.6	—	117.6	113.8	3.8	1.2	313.5	653.2	5.5

飼養技術向上のための個別支援（子牛市場での対応）

性別	頭数	出荷月齢 (月)	体高σ値	栄養度	出荷体重 (kg)	販売価格 (千円・税込)
去勢	8	9.4	1.9	5.5	331.4	667.1
牝	5	9.9	0.1	5.4	311.0	631.0



出荷体重 (kg)



販売価格 (千円)

飼養技術向上のための個別支援（農場）

飼養管理方法の確認

- 出荷体重に重点(重い牛)を置く意識が強く、栄養度(肥満)が高く体上線も緩い(締まりが無い)事が評価を下げる。



- 改善に向けた飼養環境の点検を実施。
- 発育状況確認のため、農場での定期的な体尺測定の実施を検討。



飼養環境の改善

- 飼養状況の確認により子牛育成に関わる畜舎構造の問題点を確認。



- 子牛の発育改善に向けて既存パイプハウスを活用した分娩舎・子牛舎の設置検討を支援した。

飼養技術向上のための個別支援（農場）

自給飼料生産の安定

- 経営規模拡大に必要な自給飼料の収量向上に向け、草地更新を計画



土壌分析と施肥設計を支援。
新規借入農地に対する、栽培作物の検討（WCS用稲）



経営安定化に向けた支援

- 経営改善資金活用により、繁殖素牛の導入による経営拡大を計画



具体的な動態表(飼養頭数や生産頭数の動き)の作成や家畜市場での素牛導入について助言。

- 他部門との作業競合等の検討 など

対象からの意見と今後の対応

「他者がどのような飼養環境で、家畜管理を行っているか自分の状況と比べて参考にしたい。お互いの畜舎を巡回できるような機会をつくってもらいたい」（対象者T）

繁殖台帳や分娩履歴を、分娩間隔の短縮に向けて活用できるよう支援するとともに、体尺測定により子牛の発育を確認し、適正な状態で子牛市場に出荷できるように支援する。

T 繁殖台帳のDATA化と整理、今年度出荷予定の確認。
体尺測定による飼料給与改善。

K 繁殖台帳の再整理と今年度出荷予定の確認。
発育に応じた飼料給与支援。
飼養環境の改善支援。（分娩舎及び子牛舎の整備）

U 経営計画に基づく、導入計画（動態表・繁殖台帳）の作成と増頭計画に見合った自給飼料生産拡大の支援。